

公共交通の持続的発展のために

産官学民で相互理解を深めながら「ジブンゴト」を積み上げて共創していく

## 講義パートの振り返り

デジタル化ではなくDXへの  
発想転換のポイント

1

持続性を高めるために  
テクノロジーを活用することが  
重要

2

個別の取り組みを  
定着させるためには  
全体最適の視点で見直す  
ことが必要(=DXの本質)

3

全体最適の推進は  
業界全体が協調して  
取り組むことが必要！  
(共通基盤化が可能なはず)

4

公共交通事業の  
持続的発展のために  
協調・協働しましょう！

## ディスカッションのポイント

1	公共交通のステークホルダー全員でDX/GXへの意識を向ける
2	公共交通の持続性確保は「ジブンゴト」であることを理解する
3	公共交通利用の理想と現実のギャップをお互いの立場で考えてみる
4	それぞれが出来ることを持ち寄り連携 = 共創していくことが重要

**1** 公共交通のステークホルダー全員でDX/GXへの意識を向ける

**2** 公共交通の持続性確保は「ジブンゴト」であることを理解する

**3** 公共交通利用の理想と現実のギャップをお互いの立場で考えてみる

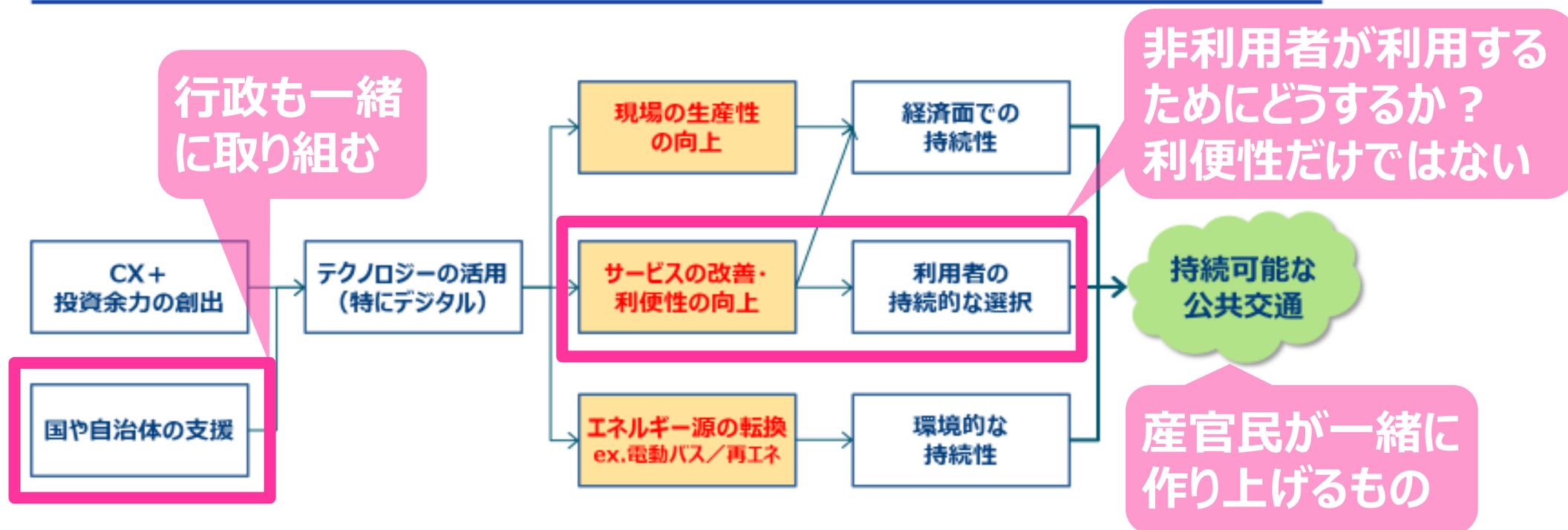
**4** それぞれが出来ることを持ち寄り連携 = 共創していくことが重要

## 議論のポイント

# DX/GXは皆で協力し合って取り組むことを理解する



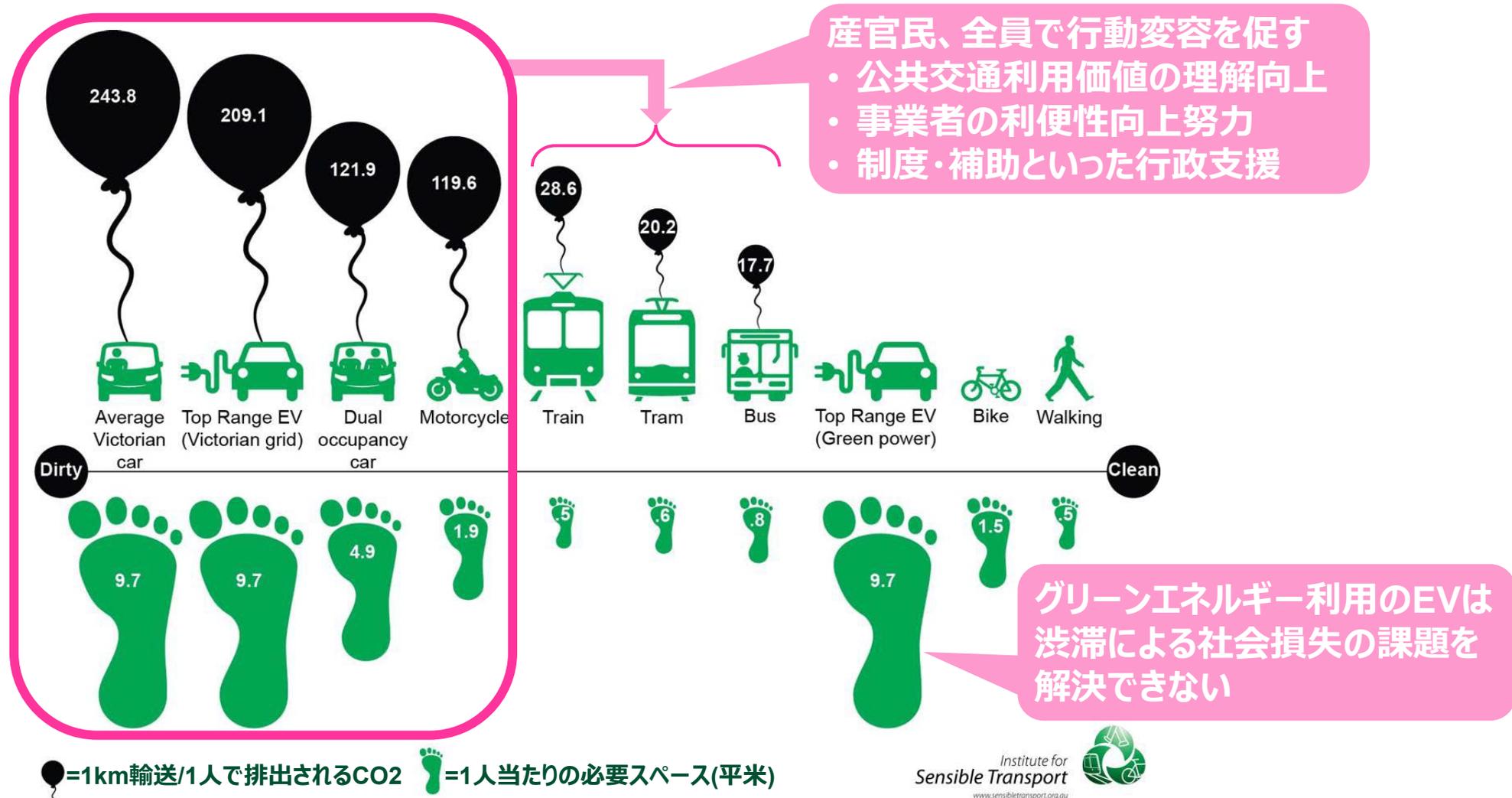
DX/GXが求められる背景 = 持続可能な公共交通を実現する



テクノロジーを活用して、DX/GXを進めることが持続性を高める

## 議論のポイント

# 例えば自らの行動変容がGXに繋がることをデータから学ぶ



1

公共交通のステークホルダー全員でDX/GXへの意識を向ける

2

公共交通の持続性確保は「ジブンゴト」であることを理解する

3

公共交通利用の理想と現実のギャップをお互いの立場で考えてみる

4

それぞれが出来ることを持ち寄り連携 = 共創していくことが重要

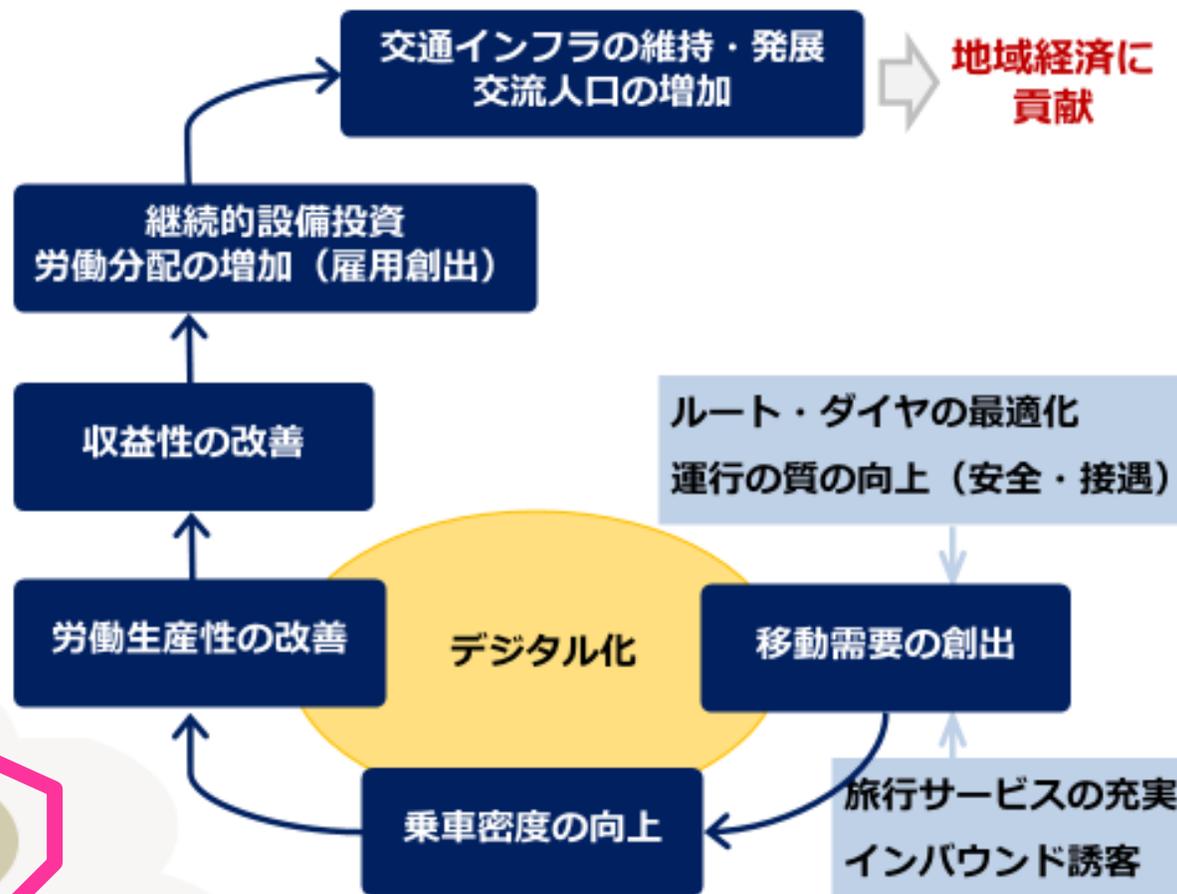
## 議論のポイント

# “安心して免許返納できる社会”に共に協力して備えることが必要

### みちのりのビジョン

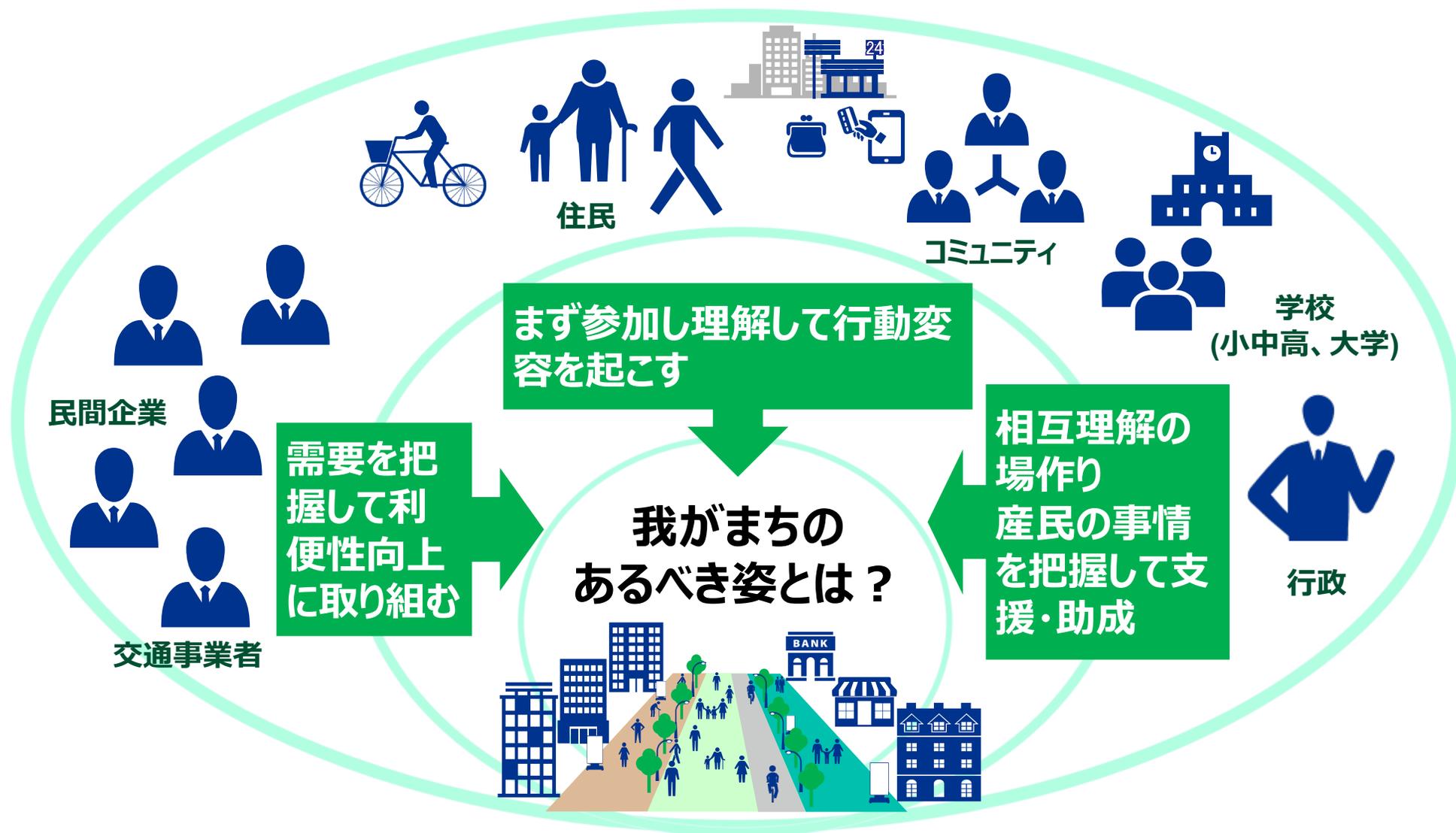


事業者だけの頑張りでは  
対策できることは限界  
がある



## 議論のポイント

# それぞれが「ジブンゴト」として実感することで協力できることが見つかる



1

公共交通のステークホルダー全員でDX/GXへの意識を向ける

2

公共交通の持続性確保は「ジブンゴト」であることを理解する

3

公共交通利用の理想と現実のギャップをお互いの立場で考えてみる

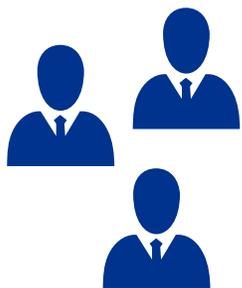
4

それぞれが出来ることを持ち寄り連携 = 共創していくことが重要

## 議論のポイント

# 立場を入れ替えて自身の期待や困りごとの解消への道筋を模索する

- 運転手不足
- 業務プロセス改革への不安  
(これまでとの違いや失敗の恐れ)
- 自助努力の限界
- 新規事業/商品開発の余力不足



交通事業者

- 外出するきっかけ、一歩目が難しい
- 免許返納への不安
- 自家用車維持費の負担割合
- 公共交通があることの安心感
- 遅刻・遅延リスクへの不安



住民

- 暮らしやすさ向上
- 災害への備え
- 環境対策
- 経済活性化
- 財政支出適正化
- ☞ クロスセクター効果を踏まえた  
リバランス (増減バランス)



行政

何のためにどこから取り組むべきか？「共想」する

議論のポイント

“共通言語”としてデータ・事実を用いて理解を共有し議論を進める



## 議論のポイント

# 産官民での共創で進められるプロセスを作る

事業者だけが頑張るのではなく、  
官民も共に「ジブンゴト」で協力  
し合って持続性のある公共交通  
を共創する

### 運行路線の改善に向けたプロセス

実績データ整理・分析

関連動向調査

課題抽出

方針検討（ルート、停車位置、ダイヤ、人員、etc）

計画策定（運行計画、収支計画）

認可申請（申請書作成、認可申請、書類提出）

運行準備（案内、運賃、運行の各種データ作成等）

1

公共交通のステークホルダー全員でDX/GXへの意識を向ける

2

公共交通の持続性確保は「ジブンゴト」であることを理解する

3

公共交通利用の理想と現実のギャップをお互いの立場で考えてみる

4

**それぞれが出来ることを持ち寄り連携 = 共創していくことが重要**

## 議論のポイント

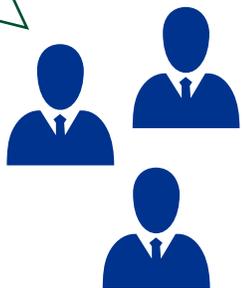
## 「ジブンゴト」で出来ることを積み上げながら共にまちを創っていく

- 公共交通利用の頻度を増やす  
(生活パターンの見直し)
- アンケートやワークショップ等への積極的な参加
- まちの現状把握



住民

- 業務プロセス改革 (DX)
- 新しいモビリティサービスへの挑戦  
(ex. 呼び出し型最適経路バス)
- 共創の場や機会への参画  
(自分だけで頑張りすぎない)
- おでかけ先、新たなきっかけづくり

交通事業者  
他、民間企業にぎわいがあり  
暮らしやすい  
まちづくり

- 成り行きではないまちの将来像づくり
- 将来像実現に向けた計画・施策づくり
- 公共交通利用への移行補助など
- 持続性確保のための各種施策実行
  - ◆ 中心市街地の渋滞解消
    - ・クルマ乗り入れ規制  
(速度/時刻制限、ウォークアブル化)
    - ・駐車場土地利用の制限
  - ◆ DX/GXの助成や人材支援
  - ◆ 行政データの提供や活用支援



行政